



川瀬勝也氏

かわせ・かつや／1945年長野県生まれ。東京学芸大学教育学部卒業後、横浜の浦島ヶ丘中学校勤務、'69年に同志社中学校に就職し、今日まで技術教育に専念する。主な著書『技術教育』（一ツ橋書房）、『たのしくできる中学校技術科の授業』（あゆみ出版）、『技術科教育法』（明治図書）など（いずれも共著）。

座談会

同志社の中等教育

— 現在とこれから —

- 出席者（発言順）
- 川瀬 勝也（中学校）
 - 富永 竹彦（女子中学校・高等学校）
 - 山崎 敏昭（高等学校）
 - 湯浅 博（香里中学校・高等学校）
 - 春日 清彦（国際中学校・高等学校）
- 司会 本誌編集委員

同志社における中等教育

— 各校の特色 —

あらゆる場で生徒が主人公
— 中学校 —

川瀬●同志社中学校は、京都・烏丸今出川の同志社大学と同じキャンパスにあります。生徒数は一学年三百二十人の規模です。他校の先生方が同志社中学に来られたとき、異口同音に雰囲気がとてもよいとおっしゃいます。緑が溢れ、統一さ



中学校生徒は重要文化財の礼拝堂で礼拝を行っている

司会●今年度から公立学校が学校五日制を実施し、また文部科学省が指導要領を改定したこともあって、中等教育に関心が集まっています。中学、高校では大学よりいち早く少子化の影響も現れていると聞きます。同志社は五つの中学・高校をもっていますが、それぞれの教育理念や伝統をいかしながら、このような状況にどのように対応しているのでしょうか。そこで今回、同志社の各中学校・高等学校がどのような教育を行っているのかを、あらためて紹介し、同志社のこれからの中等教育のあり方を考えてみたいと思います。

まず、各学校の特色を紹介していただきたいと思っています。

れたレンガ建築の今出川キャンパス、放課後も生徒が多く、学校全体がいきいきしているといわれます。

同志社中学校には大きく、次のような特色があります。

一つ目は、生徒の自主性が重んじられ、あらゆる場で生徒が主人公になっているという点、二つ目は、学年礼拝や全校礼拝で、教員や卒業生、学外の方を招いて、いろいろな話をしていただいています。生徒たちはそこで、人生の指針やさまざまな視点を学んでいます。三つ目は、授業が知的刺激に溢れていて、楽しみながら深く学んでいるという点、四つ目は、学校五日制を導入する際に行事をあまりカットしませんでした。ですから、人間としての総合力を形成する「学びの場」

としての行事を大切にしていることです。

五つ目は、クラブ活動が盛んなことです。ほとんどの生徒がクラブに所属していて、一人で複数に入っている生徒もいます。学年を越えた交流がなされるとともに生徒と教師の人間関係のふれ合いも貴重な財産となります。

六つ目は、本校には才能をもった生徒が大勢いますので、周りの友人から学び合う関係が密だという点、七つ目は、合唱祭で男子の歌声と女子の歌声とが相まって一つのすばらしいハーモニーとなるように、男子生徒、女子生徒のそれぞれがもっている良さが学校のさまざまな場面で相乗効果をなしているのです。

八つ目は、中学校と高等学校が離れた

場所にありますが、行事を始めとするあらゆる場で中学生が主体性を発揮できることです。このことは、六・三・三制度の前期中等教育の完成度の点からも注目されています。

司会●次に女子中学校・高等学校の富永先生、お話しください。

女子が主体性を持ち
自由と自立の道を選んでいく
— 女子中高 —

富永●同志社女子中学校・高等学校は京都・今出川通りにあり、同志社女子大学と隣接した場所にあります。

一八七六（明治九）年に京都御苑内で女子教育が始められ、翌年に同志社分校



山崎敏昭氏

やまざき・としあき／1958年静岡県生まれ。京都大学理学部卒業後、'80年に同志社高等学校に理科教員（物理・地学）として就職し、現在に至る。'93年から、同志社大学工学部嘱託講師として理科教育法も教える。私立中学高等学校理科研究会、科学教育研究協議会など、各研究会で授業研究、新しい実験法の研究などをすすめている。本年は、イギリス物理学会が作成した新しい高校物理カリキュラム「アドバンスンク物理」の研究会を組織し、高大連携を生かした公開講座などにも取り組んでいる。



高等学校の学園祭「岩倉祭」

ます。その中で、例えば理科であれば、ヒトゲノムや遺伝子操作問題をとり上げ、社会で生きていく上で、一人ひとりにかかわってくるこの問題をどう考えるか、自分なりの意見が持てるようにしています。

今年から文部科学省が、教科でも特別活動でもない、新たな「第三の領域」として位置づけている「総合的学習の時間」が始まりましたが、本校には、昭和三十一年代から続く、指導要領にない「特論」という科目があります。これは大学のゼミと同じ形式の授業で、生徒が一つの課題を時間をかけて調べあげ発表して討論するということです。

このように基礎的な教養としてさまざまな分野を学び、日本社会あるいは世界

の中で生きていく力になる教育を行っているのが大きな特徴です。

学校行事では、自主的に構想を練って組織を作り上げた上で行う学園祭「岩倉祭」が特徴です。学校行事のスタッフには生徒の誰もが応募でき、裏方などを手伝うという伝統的な「パート制」があります。演劇祭では、音響と照明をセッティングする音響照明パートなどもあります。考え方の違う人とかにうまくやっていくかという点も含めて、教師が生徒たちから学ぶことも多いですね。

司会 ●続いて香里中学校・高等学校の湯浅先生、お願いします。

浅先生、お願いします。

女紅場と称して開校しました。以来、女子単学の学校として伝統をきずきあげてきました。

本校の教育で大切に行っていることは、聖書にいう「地の塩」「世の光」となる女性、つまり知的教養だけでなく、キリスト教的人生観・世界観を身につけた主体性のある人間を育てることです。

本校は本年度から学校五日制のカリキュラムを始めましたが、中学校では基礎学力を身につけることに重点を置いていきます。六年間一貫して教育にたずさわれることもあり、英語、数学、理科の科目では部分的に高校課程も導入しています。高校三年生では、自分の進路を考えて自主的に科目を選択できるように、必修単位の半分以上を選択科目にしています。



富永竹彦氏

とみなが・たけひこ／1944年大阪府生まれ。'66年同志社大学文学部英文学科卒業後、1年間仏教系の中学校に奉職。'67年同志社女子中学校・高等学校に英語教諭として就職。2000年度から教頭の任にあたっている。

行事も精選し、学力保障に心がけました。つまり、「六年間でしっかりと教育をする」ことが本校の特長であり、使命であると考えています。六年間の一貫教育で「しっかりととしたカリキュラムで学力保障をする」「しっかりと生活指導をする」「しっかりと生徒・保護者と信頼関係をきずく」ことを大切にしています。

司会●続いて同志社高等学校の山崎先生、お願いします。

生、
お願いします。

— 高等学校 —
伝統ある授業や学園祭で自主性を養う

山崎●同志社高等学校は京都岩倉の地に
あります。広々としたキャンパスは緑豊
かで、生徒たちはのびのびと学校生活を

送っています。

自治、自立、自由と言いますが、何より大切なのは、生徒が自ら発見していくことだと私たちは考えています。自分で発見して身に付けたものは、与えられたものよりもはるかに魅力的です。

一般の高等学校では普通 一年生で基礎的な学習をして、二年生から文系と理系のコースに分かれていきますが、本校は一九四八年の新制高校発足以来、築き上げてきた教育スタイル、カリキュラムを維持していて、文系、理系コースがあります。すべての生徒が理科や社会科学など全教科を学ぶのが特徴です。本校にも当然選択科目はありますが、クラス編成は文系と理系が混ざった総合的なクラスで、高校三年間ずっとその形を維持し



春日清彦氏

かすが・きよひこ／1961年長野県生まれ。同志社大学文学部文化科学国文学専攻卒業、同志社大学大学院文学研究科修了後、'86年に同志社国際中学校・高等学校の国語科教諭として就職。'95～2001年、同志社海外・帰国生徒教育センター副センター長。国際教育交流センターの文部科学省委託研究に参加、執筆。龍谷大学小島勝教授の帰国子女教育共同研究に参加、執筆。クラブ顧問としては、サッカー部を担当し、京都府高校体育連盟サッカー部の専門委員や、京都府サッカー協会審判インストラクター・インスペクターを務める。

春日●同志社国際中学校・高等学校は、京都府京田辺市の同志社京田辺キャンパスにあります。本校は、当時の文部省の後押しもあり、帰国生徒の受け入れを主たる目的とした高等学校として創設されま

国際感覚あふれる中で個性を伸ばす ——国際中高——

ラジルから来た留学生が英語をあまり話せなくて苦労した経験もあります。最近では、学校行事に地域の人を招待することも増えました。クリスマスの祝会は、校内では礼拝形式で行い、地域の人たちを招いてもう一度行っています。
司会●次に国際中学校・高等学校の春日先生、よろしくお願いします。

した。この種の高等学校としては国際基督教大学高等学校、暁星国際高校に次ぐ三番目の学校です。同志社の伝統的な教育を基礎にして、一九八〇年に高等学校が、一九八八年に中学校ができました。国際中高にはインターナショナル・スクールのような雰囲気があるとよく言われます。現在、生徒の出身国は世界三十カ国、在留経験国を含めると五十カ国弱にのびります。在住年数は、創立当初は四年七月月ほどでしたが、近年増加する傾向にあります。世界各国では学期も学制も違いますので、本校では中学校一年生の七月編入から始まって、高等学校二年生七月まで編入の機会があり、急な帰国にも対応できるようなシステムを取り入れています。

高等学校一年生の段階では学年総数の三分の二を帰国生徒から、残りを国内一般生から受け入れます。留学生の受け入れでは、一番短い短期留学生で二週間。その他三カ月、六カ月、一年間の留学生も受け入れています。本科生として三、六年間学んでいる十カ国ほどの留学生も含まれますと、本校の生徒構成は極めて多様です。
いまワールドカップが世間を席巻していますが、生徒が応援している国はさまざまで、日本一色にはなりません。「きのうアイルランドが勝った!! 私ほマンチェスターユナイテッドがある近くに住んでいたんや」という生徒もいます。
生徒一人ひとりの個性を伸ばしていくために、国際中高では三つの方向性を持

ざっくりばらんな男子校の歴史をもつ ——香里中高——

湯浅●昨年二〇〇一年に、同志社香里中学校・高等学校になって五十周年を迎えました。また、高等学校で女子生徒が入学するようになってから今年で三年目になります。さらに、今年度からは中学校でも女子生徒が学んでいます。

本校は大阪府寝屋川市にあります。校地は大阪と京都の中間に位置した丘陵地にあつて、背後に藪や池などがあり、男子生徒ばかりの時は、生徒がそこに自由に入り出すこともあるような、ざっくりばらんな雰囲気でした。生徒も教師も非常に個性が重んじられています。私は社会科の教師ですが、授業では得意な分野



湯浅 博氏

ゆあさ・ひろし／1944年京都府生まれ。京都教育大学地理学専攻卒業。'67年同志社香里中学校・高等学校に就職。初年度から、約30数年間、中学1年の地理の「身近な地域の観察」の単元で、野外巡検・オリエンテーリング・ウォークラリー・フィールドワークと形態を変えて実施し、一貫して班別で行動させ、生徒自身が考え行動できることをめざした。また高校1年では毎年テーマを変えて、京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀をフィールドとして、丸1日を使って班別で現地へ行かせた。その間全国地理教育研究会等で発表する。海外経験も多く25カ国に足跡を残し、特に南米ベネズエラでの2年半の日本人学校赴任は、現在、国際コースで比較文化を教えるのに多に役立っている。クラブ活動では、'68年からワンダーフォーゲル部を担当し、歴代顧問の在位記録を大幅に更新中である。



香里中高・中庭

をより重点的に教えることができます。生徒の個性ですが、香里中高の生徒は普段人前では、勉強しているところを見せないのですが、わりと地道に勉強しています。九十人ほどの生徒が他中学から入ってきますが、香里中学出身者はあまり勉強しないと思ひ、気が緩むのでしょうか、高校最初の試験では内部進学生が成績上位を占める傾向があります。それから香里の生徒は卒業してからもよく訪ねてくれますね。
留学生に関して言いますと、五年ほど前から、高校二年生のクラスに毎年世界各地から二人を一年間受け入れていました。短期留学生は今までも来ていましたが、一年間一緒につき合うとなると、突っ込んで話をする必要があり、二年前づ

っています。まず、生徒の多様性に耐えうるハードの面ですが、一九九七年に完成したコミュニケーションセンターがそれに当たります。

現在、生徒全員がメールアドレスを所持し、全科目で自由に使えるようになっています。英語の授業では、例えば、中学二年生になると、イタリアのインターナショナル・スクールとほぼ同レベルの英語力を持った生徒と一年間、英語でeメールの交換をするといったプロジェクトもありました。授業時間内に彼らから送られてきたメールを読んで返信していくわけです。限られた時間の中で、メー



国際中高のコミュニケーションセンターでの授業

ルを読み、思考し、返していくわけですから、生徒自身が自分で思考しなければならず、それによって総合的な英語力が身につく。今年度テンプル大学ジャパンの首席として三年次生からアメリカ本校にいく学生がいるのですが、その生徒は本校の国内一般生として学んでいます。

二つ目は、ソフト面です。一九九八年から新しいカリキュラムの下で、学校五日制を実施し、多様な生徒たちのポテンシャルに活かし、それに必用としています。

外国語については、本校には専任の外国人スタッフが四人、第二外国語のスタッフまで数えると外国語担当教員が三十人弱です。高等学校ではフランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ハンガルの五カ国の第二外国語を用意し、それに必修英語、選択英語と、充実した語学教育を実施して、学年が上がることにより、自分の興味にそって選択の幅を広げていけるようになって

ています。

総数で八十一の選択科目があり、その中には、フィールドワークやレクリエーションのように生徒が独自に展開していく授業もあります。大学入試に対応しながら、個性を重視したカリキュラムを編成しています。

三つ目の特長は、フィロソフィーです。教員が生徒とどれだけ深い信頼関係を作ることができるかを重視しています。そのための条件としては、少人数制のクラスが不可欠です。

中学校は最大三十五人の三クラス。高等学校は四十五人のクラス構成です。高等学校一年生の時点でホームルーム単位で行われる授業は週三時間しかなく、ほかには習熟度別授業です。英語で言えば、英検一級を持っている生徒が三十人ほど、準一級が約百五十人おり、習熟度別にしています。国語も、日本の学校に通ったことがなく漢字に弱い生徒もいるので、同じように習熟度別のクラスにしています。平均すれば、だいたい三十人前後のクラスになりますが、生徒一人の授業もあります。私が今教えているクラスは高校一年生が四人、中学三年生が五人

のクラスです。

高校での他中学出身者の受け入れ

司会●同じ同志社でも、各校いろいろな特色がありますね。各高校では、それぞれ、他の中学校からどれくらい数の生徒を受け入れているのですか。

山崎●同志社高校には、同志社中学から約三百二十人が入って来まして、他校から九十人ほど入っています。

春日●国際高校では百八十人を他校から受け入れています。そのうち百二十人が帰国生徒で、六十人が一般生徒です。内部進学が約九十人です。

湯浅●香里高校では、今年の場合、学年総数の五分の一ほどの生徒が新たに他中学からの入学者です。

富永●女子高校では二十人のみの募集です。以前は試験入試を行っていたのですが、試験科目しか勉強してこない生徒が多いということもあり、現在は中学校での成績とボランティア、資格取得などの活動歴を含めた総合的評価で、学校推薦という形で受け入れています。

司会●同志社の各中学は、それぞれ個性

的な教育をしているので、高校にそのまま進学してきた生徒と他校から来た生徒との間には、文化の違いというか、ある種の摩擦があるのではないのでしょうか。

山崎●同志社高校では、一クラス四十五人ほどのうち他校出身の生徒は十人ほどです。すぐ同志社に溶け込む生徒もいますが、規律の厳しい公立中学で学んできた生徒の中には、自由に行動する同志社中学出身の生徒に対してものすごく違和感を感じる人もいます。以前は、クラス合宿を入学後の早い時期に行っていたのですが、今は、苦勞を含めていろいろ体験させてから、七月に一泊二日のクラス合宿を設けています。そうすることでより生徒同士の交流が深まります。

富永●女子中学校から女子高校に進学してくる生徒が約二百四十人で、他校からの入学が二十人ほどです。六クラスに各三〜四人の外部生しかおらず、あまり目立ちません。最初は同志社の自由に違和感を感じているようですが、時間が経つにつれ、自然に溶け込んでいきます。**春日**●国際中高では逆に、国際中学出身者が一学年のうち三分の一とマイノリティになりますから、彼ら自身が散ってい

くという感じが強くありますね。その意味では他校とは雰囲気が違うかもしれません。

湯浅●香里高校は、女子生徒を含めて学年総数の五分の一ほどの生徒が新たに入学してきます。三年前に初めて女子生徒が入学する際に、国際コースというコースを二クラス新たにつくり、女子生徒を四十五人募集しました。現在その二クラスは男女の比率が半々。文理コースの五クラスは男子生徒ばかりです。今年度は外部から男子生徒が十五人しか入学しておらず、各クラスに一〜二人ほど。四月に友達づくりを目的としたオリエンテーションなどもあり徐々に溶け込んでいっています。

司会●長く男子校であった香里高校に、はじめて女子生徒が入学してきた時の男子生徒の受け止め方はどうでしたか。

湯浅●かつての男子校時代から香里の学園祭には、大げさに言えば、大阪じゅうの女子高生が集まってきました。それから、女子生徒が入学してきても、男子生徒はさほど驚かなかったと思います。

むしろ困ったのは教師のほうでして、一期生はだいぶ甘やかしてしまいました

ね（笑）。今年から中学校も女子を受け入れていますので、クラスに三分の一くらい女子生徒がいます。私は中学一年生と高校三年生を教えています。高校三年生の四十人のクラスに約半数ほどの女子生徒はすくなく存在感がありますね（笑）。男子生徒ばかりの時とはずいぶん雰囲気が違うなと私は感じています。

人間教育の場としての礼拝と宗教教育

司会●同志社はキリスト教主義にもとづいた教育を行っています。とくに中学・高校では礼拝や宗教教育を重視することが特色になっていますね。でも外部の者からすると、厳めしい宗教儀式に中学生や高校生が参加するのは大変なのではないかというイメージがあるようです。礼拝や宗教行事などは、実際にはどのような行われているのでしょうか。

富永●女子中高では礼拝を毎朝行っています。礼拝では教職員、教会牧師、卒業生、大学教授、社会人の方を招いて、幅広く話をしていただいています。「花の日礼拝」や「収穫感謝礼拝」には花や収穫物を持って、施設を訪問します。施設

訪問の歴史は五十年以上にもなります。他にも多様な宗教教育を行っています。例えば十二月十七日に行われるページェントがあります。これは、一九三六年に始まりました。二学期末の試験終了後の一週間ほどで、すべてを生徒たちが準備します。共学の中ではなかなか発揮できないと思いますが、本学では、女子が主体性を持って活動しています。

礼拝は自分を高めるためには何が大切であるかを生徒自ら考え、選択する、良い機会になっています。

川瀬●中学校の礼拝では、教員が登壇して十五分ほど話をしますが、外部から講師を招くこともあります。何より特徴的なのは、生徒も登壇することです。司鐘生（彰栄館の鐘を朝と昼に鳴らす担当の生徒）やオルガン演奏などで奉仕活動をした生徒の経験談、また生徒会役員などの話はほぼ定期的にあります。

教員や先輩の話はほぼ次のようなものといえます。一つはアメリカ



花の日礼拝で桃山学園に訪れた女子中高の生徒たち

師による「同中学生に期待すること」という主旨のお話。
このように礼拝は生徒にとって精神的な支えとなると同時に学びの場となっています。新島先生が期待されていたのもこれではなかったかと思えます。それから、花の日礼拝や収穫感謝礼拝のときには、生徒が家からお花や果物を持ち寄り、それを代表が施設に届け、施設の方の話し相手にもなって、喜ばれています。

富永●女子中高の礼拝でも、いろいろな方にお越しいただいたり、生徒が話す機会も設けています。毎回、話だけでは生徒も飽きるので、時には管弦楽、琴、ハンドベル、マンドリンの演奏や聖歌隊による音楽礼拝を行っています。

湯浅●香里中高では、週二回、約三十分のショート礼拝があり、教員が順番に話をします。それに加えて、一週間に一回、五十分のロング礼拝、春と秋の宗教教育強調週間に外部の方を招いています。特別礼拝もあります。一九九九年に起きたトルコや台湾での地震の際、献金を集めて、実際に義援金を持って行ったこともあり、礼拝は曜日制で、毎日行っているわけではありませんから、礼拝が

ない日はホームルームを行っており、終礼は中高で毎日行います。昨年九州に修学旅行に行った時に、長崎の高等学校と合同礼拝をしたのですが、生徒は学校の中とは違い、きちんとした態度で参加していました。他校との交流をもつと積極的にやっていたかねばと感じています。
春日●国際中高では毎日礼拝を行っています。特徴は、司会をすべて宗教委員、つまり生徒がすることです。彼らは合宿に参加し、礼拝の必要性、学校生活での礼拝の意義を学んだ上で、基本的には立候補で司会を決めます。礼拝では英語、第二外国語による生徒のスピーチもあり、第二外国語であれば英語と日本語の二人の通訳がきます。また、パイプオルガンでの音楽礼拝なども定期的に行っています。

山崎●クリスチャンであろうとなかろうと、礼拝でのスピーチの基本は学校や社会の中で、生き方をどう考えるかだと思いますね。

高等学校では、週二回の学年礼拝だけです。高校三年間ずっと積み重ねていく中で、何かを感じとってもらいたいと考えて実施しています。キリスト教とは

何かということをお伝え込むことではなく、生きるとはどういうことか、他者と共に生きるとはどういうことかを考えさせるのがキリスト教主義の教育だと私は考えています。

富永●各校の礼拝に共通して言えると思うのですが、受け身ではなく、あくまで生徒が主体で行われている点が特徴ですね。そこが教会での礼拝とは違う点だと思います。

川瀬●卒業生が訪ねてくると、真っ先に近寄っていくのが礼拝堂です。「礼拝が一番の思い出です」と言う大先輩もたくさんいます。

富永●卒業後に普段なかなか聴けないパイプオルガン演奏を聴きにくる卒業生もいます。

山崎●同志社高校のチャペルでは土曜日に卒業生の結婚式が行われていることがよくあります。

力で起こった同時多発テロやインド、パキスタン紛争のような世界情勢の中での出来事をどう考えたらよいのかの問題提起を行う。二つ目は青春時代の希望や悩みについて自身の体験を交えながら、人としての生き方を考える。三つ目は、高校や大学の先生を含め学外から招いた講

生徒の変化と各校の取り組み

司会 ●かつて入学試験は大阪府、兵庫県、京都府と同日に行われていましたが、日程がずれるようになって、各校とも遠距離通学者が増えていっていると聞きます。また、最近の生徒の気質の変化もあります。各校の理念や伝統を維持しながら、新しい状況に対応していくこうとする各校の取り組みなどを紹介して下さい。

生徒会活動を大事にしていこう

富永 ●女子中高では京都市内から通う生徒が以前と比べて少なくなり、今は三割ほどです。京都府下、大阪府、兵庫県、滋賀県、奈良県の広い地域から生徒が来ます。そのせいか最近京言葉が少なくなり、授業を潰す合言葉の「先生、御所に行こう」という言葉を生徒から聞かなくなりました。

また、生徒たちのニーズも多様化してきて、それに対応していくには、教師と生徒との信頼関係を作っていくのが大切



高等学校の球技大会

生徒会活動も大切です。生徒が自治能力をどれだけ発揮しているかは学校の活力のバロメーターと言えます。中学校には、中央委員会、高等学校には、代議委

そういう面も重要です。

山崎 ●同志社高校では、選出された新生徒会の最初の関門が球技大会。まったく段取りが分からず、生徒は生徒会の役員の言うことを聞かないから、切れまくる（笑）。ここで学ぶ。そういう体験を通して秋の学園祭の時には生徒会自身が段取りをつけるようになってきます。

司会 ●公立高校では生徒会のやり手がないところが多いと聞きますね。

富永 ●これは同志社が誇ってもいいことだと思いますが、同志社各校とも生徒会の役員が途切れない。やりたい人がどんどん出てきます。

川瀬 ●同志社の生徒は、指示待ち人間ではなく、独自の企画を作っていくのが特徴です。私たちもそれを期待しています。

コミュニケーションというコンセプト

春日 ●私は、生徒の気質に関して言えば根本的なものは何も変わっていない気がします。現在の状況を考えても基礎学力低下の責任を生徒の側に持つていくこと自体に問題があります。

国際高校では、JR東西線が開通した

ことで生徒の出身地は非常に広域化した。遠くは姫路、三重県名張から来ている生徒もいます。

学校五日制になって時間が経っていますので生徒たちも随分慣れてい

ささほどこカリキュラムの話をしました

が、最終的にたどり着くコンセプトは「コミュニケーション」だと考えていま

す。現代のインターネット、テレビ、本などの情報や教師の話はすべて相対化されていく状況の中で、いかに的確に豊富な情報を集めて、自分の見解を構築していくかが問われます。そしてそれを他者にどう発信していくかがさらに問われま

す。他者が同じようにしてきた時にも、他者を尊重して、他者の意見を取り入れていく。その能力が今必要とされています。

教師の存在自体もすごく相対的な世界に入りこんでいると述べましたが、教師には、生徒との信頼関係、人間関係の中で、彼らの中に入っている部分があり、そこに教師の可能性があるのではないかと考えています。

員会があります。以前、数人の生徒が中学三年生のスキー学習を高校一年生になってから実施してほしいと全学年から署名を集めて校長室に持ってきたことがあります。その時校長は「一度、生徒会の中で、全体の問題として考えてみなさい」と伝え、代議委員会を考えるように諭しました。しばらく日が経ってから、代議委員会から校長に要請書を提出してきました。生徒たちが「今、何を選択することが大切なのか」を全体のことを考えて結論を出す過程がとても重要だと思っています。自治能力をのびすことが大切です。問題があれば、個人的に利己的な言動をとるのでなく、代議委員等を通して民主的に解決する方策を生徒が考えることが大切です。本校の「服装規定」も「携帯電話所持」についても、学校が一方的に決めてはいません。

今、何が必要で、何を考えなければならぬのか、何が自分たちを高めていく自由なのかを一つひとつ考えさせるのが基本方針です。

クラブ活動は、中高合同のものもあり、高校三年生が中学一年生を教えることもあり、年齢が離れた生徒間で学んでいく、

オープンキャンパスで模擬授業を行う

湯浅 ●香里中高は、キャンパスが京都府と大阪府のちょうど中間に位置していますので、大阪府出身の生徒が多く、京都府南部、奈良県の生徒もいて、最近兵庫県あたりの生徒が増えていきます。大阪府は公立高校のレベルが高く、入試が併願制だった時には、香里に受かったら公立高校のトップ校を受け、落ちたら香里に入学する。その後私立に進学校が増えたこともあり、その公立高校のトップ校の次にあった本校の位置が今微妙になつてきています。

高い学費を払って同志社香里にくる意味が問われています。大阪の親御さんは、京都と少し気質が違い、シビアです。それなりのお金を払っているのだから、それに見合うことをやってくれときつく言われる。

いま大阪の学校ではオープンキャンパスが盛んで、本校でも行っていますが、ただ単に学校の説明や施設案内をしてハイド面の充実をいうのではなく、どんな授業を行っているかを知ってもらうソフト面が重要です。そのために六月三十日

ベースを重視した教育を行っていく
山崎 ●大学がスペシャリストをめざすなら、高校はゼネラルな位置にあつてもいいのではないかと思います。全国的には、私立、公立を問わずとりたて科目だけやればよいという傾向が強まる中で、本校はベースを大事にしたカリキュラムを意識しています。

生徒自身が情報を集めて自分の将来を判断する能力が低下していることもあり、早くから文系・理系のコースに分けるのではなく、いろんなものに興味を持たせるような教育をしています。そうすれば本当にやりたいものが見つかるのではと考えています。個性を生かすというのは、ベースを作った上で、生徒自身が決断して取り組んで行くものです。



中学校のパソコン授業

に、中学校で小学校四年生以上の生徒を対象に模擬授業を行います。例えば、私は社会の地理の教師ですので、約二十人くらいの生徒を集めて、日本全体の都道府県パズルを作り、参加する人に何県で

すかと聞くジグソーパズルや古代人の骨を扱った授業をする予定です。教科書の内容だけでなく、「本物」を普段から重視していることをアピールしたいですね。（注・当日の参加者は、親子合わせて約二千五百人でした）

ハーフサイズの授業を取り入れる

川瀬 ●同志社中学校が学校五日制を導入したのは、ふだんは生徒が一日の大半を学校で過ごし、家に帰っても予習・復習でその日が終わってしまい、個性を磨き、自分の可能性を引き出すには、時間の保障が絶対に必要だと考えたからです。その分、土曜日の四時間がカットされましたから積み上げ教科である英語の授業の解決策としてクラスを半分に分けて行うハーフサイズの授業を採り入れました。その他、体育、技術、家庭科もハーフサイズで行われています。その他の教科は、内容を精選するとともに中味の濃いカリキュラムとなっています。

ご承知のように本校では指導要領を超えた授業をかなり以前から行っています。英語とコンピュータ教育は、最近と

ただ、選択科目は英語が好きならその科目ばかり選択することもできるような幅のあるカリキュラムになっています。このカリキュラムをさらに充実させてい

これからの同志社での中等教育

司会 ●公立学校も他の私学もさまざまな改革や取り組みを始めています。これからの同志社では中等教育はどのような方向をめざすべきなのでしょう。

富永 ●今、公立学校が、私学がこれまで行っていた授業や行事に取り組み、また他の私立でも同志社が行っているような取り組みを始めています。同志社教育そのものを大切にしていけると同時に、組織的あるいは制度的な構造改革もやっていないければ、社会に対してのアピール度が弱くなつていきます。

女子中高では、二〇〇三年度から同志社大学、女子大学への推薦進学を基本とした「リベラル・アーツコース」と医・歯・薬・理工系の「ワイルド・ローヴァーコース」の二つのコース制を実施します。ワイルド・ローヴァーコースは同志

くに注目されています。一年生の週四時間の英語の授業はすべてハーフサイズで、また二、三年生は五時間のうち二時間をハーフサイズ、一時間がネイティブスピーカーによる授業です。生徒の英語でのプレゼンテーション力が高いためか、中学生で英検準二級を取得している生徒も多く、英検の団体表彰もたびたび受けています。

コンピュータは、学内LANを構築して、生徒全員がIDとパスワードを持っており、貸し出し用ノートパソコンも各授業での使用が可能です。NHKで放映されたこともあつて有名になった経済の授業でのバーチャル投資や技術の授業での機械制御・プログラミング学習などにも力をいれています。

また、実証的に学ぶということに力を入れていきます。教室・設備のハード面も充実していて、例えば理科では物理、化学、地学、生物の四つの専門教室があります。実験器具なども一人に一台、あるいは二人に一台と充実しています。修学旅行にかわり、学年ごとのキャンプがあるなど行事も豊富です。

学園祭では、生徒が自ら脚本を作り、

くためにも、富永先生が言われたように、教師一人ひとりが、生徒と信頼関係を作っていくことが大切です。

社大学や女子大学にない学部、たとえば医学部、薬学部に行きたい生徒もたくさんおり、その生徒たちに今まで以上に対応するためのものです。土曜日の四時間をそれに充てていきます。中学校で四十人の生徒を募集しますが、中学三年間は、他の生徒と混じって学び、高校生になつてから進路に合った勉強をします。

五日制、学力保障、同大・同女大への推薦進学、自立をうながすカリキュラム、同大・同女大にないコースへの進学等、色々なことを新しく大切にする必要があります。社会の動きの中で、同志社五中高がどうしていけばいいかを、赤裸々に話し合っていないと、同志社教育そのものが脅かされるかもしれません。

山崎 ●小学校・中学校の教育内容が週五日制にともない、三割減になりましたが、

の日本語しか話せず、授業をテープに録って、寮に帰ってから友達に意味を説明してもらいながら勉強していたということです。そのような雰囲気の中で、彼らは潜在能力を最大限に開花させていった



香里高等学校の国際コースの授業

くれるわけです。一貫教育で、ある程度完結したものを追究でき、それが行事、礼拝に反映されて生徒の人間性を育んでいるという点など、伝わりにくいものを同志社全体としてアピールできればすごく大きな力になっていくと考えています。

川瀬 ●外から見ると、同志社の各校がそれぞれ単発でアピールしているのはもったいないと言われます。建学の精神をバックボーンとして同志社五中高がまとまって外に向かってアピールすることがあってよいのではと。その上で、二十一世紀型の私学はどうあるべきかを各校が主体的に考える必要があります。

湯浅 ●子供が多い時は、生徒同士の競争も激しく、同志社の中学校、高等学校に入れば楽に同志社大学に入れるというのが、生徒にとって大きなメリットだったと思います。これからの少子化の時代は生徒の多様なニーズにどう答えていくかが重要です。

富永 ●以前は、同志社の各中高で交流があったのにもかかわらず、今は希薄化しています。お互いに情報を交換して切磋琢磨すべきですね。

司会 ●同志社大学で、同志社四高校出身者の学生と接していて感じるのは、各校の個性の違いもありますが、共通しているのは良い意味で「自由に慣れている」ということです。いわゆる「内部生」は、自由な環境の中で生きていくすべてを大学入学時にすでに持っている人が多いですね。一般の高校から来た一年次生などには、自由な環境の中で何をやっていいのか分からなくて、とりあえず授業に出ているだけという状態の学生も多く見られます。それに比べ、答えがない問題を突きつけられた時に同志社の四高校出身者は、非常に鮮やかな解答をする傾向があります。これが同志社的なスピリットなのかと感じています。

お話にありましたように、女子中学校・高等学校では新コース制が、香里中学校・高等学校ではオープンキャンパスが行われています。大学と中高で連携をとりながら少子化の時代に対応した取り組みをさらに活発化していく。それが、今同志社に求められているといえます。

本日は、ありがとうございました。

(二〇二二年六月十日大学ハリス理化学館で収録)

その分が高等学校のカリキュラムにしろ寄せがかり、非常に窮屈です。一方、高等学校の授業が増えているかといえば減っています。ですから、中高で基礎学力をどう身に付けていくかが、私学・公立を問わず大きな問題になってくるのは



女子中高のクリスマスページェント

明白です。

女子中高はその一部を中学へ回すことで問題を改善すると富永先生がおっしゃっていました。知識を詰め込んでたくさん覚えさせるのではなく、生徒自身が使える学力をどうつけていくのか大きな課題です。同志社の高等学校と大学の交流をより活発化させ、生徒が最先端の内容を知り、自分もしてみたいと勉学に励んでいく。同志社の一貫教育の中で、高大連携の果たす役割を今以上に研究していくべきです。

富永 ●高等学校と大学の懇談会がありますが、「高大連携」も大切です。

春日 ●少子化の中で、有望なマーケットは生徒の弟、妹さんだと思っんですよ。お兄ちゃん、お姉ちゃん、同志社で身に付けた雰囲気と人間性、また楽しそうに学校に行っている姿を見て、自分も行きたいと思っってもらう。

全国入賞を何人したとか、インターハイにこれだけ行きましたとか、それは見えやすく伝わりやすいのですが、礼拝の中で知らない間に培われている人間性はなかなか伝わりにくい。そういう生徒を入学させるかという問題以上に、入学し



国際中高の小クラスの授業（スペイン語）

てからの生徒の伸長度をどう伝えるのかを考えていく必要があります。

阪神大震災の時、テレビで英語と日本語で現地の取材をしていたレポーターは国際高校出身でした。高校三年間、片言

同志社国際中学校・高等学校

創立年：1980年
生徒数：中学校288人（うち女子184人）
高等学校792人（うち女子430人）
教職員数：133人
所在地：京都府京田辺市多々羅都谷60-1
電話：0774（65）8911
ホームページアドレス：
<http://www.intnl.doshisha.ac.jp/>

2003年度入試案内

〈中学校〉
募集人員：約60人（帰国生徒）、約30人（一般生徒）
試験日：2003年1月28日（火）（帰国生徒のみ）、
29日（水）
※各学年ごとに1月、7月の年2回、編入試験があります
出願期間：2002年11月28日（木）
～12月6日（金）（帰国生徒）
2003年1月14日（火）
～17日（金）（一般生徒）
合格発表：2003年2月3日（月）郵送予定
試験科目：帰国生徒
A選考 面接、作文（日本語以外）、書類審査
B選考 国語、算数、理科、社会
一般生徒 国語、算数、理科、社会

〈高等学校〉
募集人員：約120人（帰国生徒）、約60人（一般生徒）
試験日：2002年12月9日（月）、10日（火）（帰国）
2003年2月9日（日）、10日（月）（生徒）
2003年2月10日（月）、11日（火）（一般生徒）
（試験地は日程により異なるが、ニューヨーク、シンガポール、ロサンゼルス、ロンドン、京都）
※高1は7月、高2は12月（A選考のみ）、2月、7月に編入試験があります
出願期間：2002年10月31日（木）～11月7日（木）
（12月入試・帰国生徒のみ）
2003年1月9日（木）～16日（木）（帰国生徒）
2003年1月21日（火）～24日（金）（一般生徒）
合格発表：2002年12月17日（火）（12月入試）
2003年2月14日（金）（2月入試）
※いずれも郵送予定
試験科目：帰国生徒
A選考 面接、小論文（日本語以外）、書類審査
B選考 国語、数学、英語
一般生徒 国語、数学、英語、理科、社会

入試説明会（保護者・受験生対象〈施設見学可〉）
〈中・高とも〉2002年10月5、12日（土）13時30分～

同志社香里中学校・高等学校

創立年：1951年
生徒数：中学校746人（うち女子77人）
高等学校925人（うち女子131人）
教職員数：121人
所在地：大阪府寝屋川市三井南町15-1
電話：072（831）0285
ホームページアドレス：
<http://www.kori.doshisha.ac.jp/>

2003年度入試案内

〈中学校〉
募集人員：約240人（男女）
A入試（一般）
男子約125人・女子約65人
B入試（協定校）
男子約35人・女子約15人
試験日：2003年1月29日（水）
出願期間：2003年1月6日（月）～15日（水）
合格発表：2003年1月30日（木）
試験科目：A入試 国語、社会、理科、算数
B入試 作文、面接
〈高等学校〉
募集人員：文系・理系コース、
国際コース 男子約15人
国際コース 女子約45人
試験日：2003年2月10日（月）
出願期間：2003年1月27日（月）～30日（木）
合格発表：2003年2月12日（水）
試験科目：作文、面接（個人報告書の教科評定、特別活動などもあわせて考慮）

入試説明会（保護者・受験生対象）
〈中学校〉2002年10月19日（土）15時～
11月9日（土）15時～
〈高等学校〉2002年11月9日（土）14時～
11月23日（土）14時～
12月7日（土）14時～
〈施設見学可〉

入試説明会（保護者・受験生対象）
2002年10月19日（土）15時～
11月9日（土）15時～
2002年11月9日（土）14時～
11月23日（土）14時～
12月7日（土）14時～
〈施設見学可〉



同志社女子中学校・高等学校

創立年：1876年
生徒数：中学校716人、高等学校787人
教職員数：115人
所在地：京都市上京区今出川通寺町
西入玄武町602-1
電話：075（251）4305
ホームページアドレス：
<http://www.girls.doshisha.ac.jp/>

2003年度入試案内

〈中学校〉
募集人員：リベラル・アーツコース約200人
（同志社大学・同志社女子大学への推薦進学を基本としたコース）
ワイルド・ローヴァーコース約40人
（医・歯・薬・理工コース）
試験日：2003年1月29日（水）、30日（木）
出願期間：2003年1月8日（水）～17日（金）
合格発表：2003年1月31日（金）郵送
試験科目：両コースとも国語、算数、社会、理科
〈高等学校〉
募集人員：約20人
試験日：2003年2月10日（月）
出願期間：2003年1月20日（月）～24日（金）
合格発表：2003年2月13日（木）郵送
試験科目：調査書、中学時代の活動歴、作文、面接

入試説明会（保護者・受験生対象）
〈中学校〉
2002年10月19日（土）14時30分～
〈高等学校〉
2002年10月19日（土）13時～
見学可能行事：
文化祭バザー 2002年10月5日（土）
9時～15時
クリスマスパーティー
2002年12月17日（火）17時～



同志社中学校

創立年：1875年
生徒数：971人（うち女子526人）
教職員数：78人
所在地：京都市上京区烏丸通今出川
上ル東入岡松町294
電話：075（251）4353
ホームページアドレス：
<http://www.jhs.doshisha.ac.jp/>

2003年度入試案内

募集人員：約320人（男女）
試験日：2003年1月29日（水）
出願期間：2003年1月6日（月）
～1月15日（水）
合格発表：2003年1月31日（金）
午後郵送予定
試験科目：国語、社会、理科、算数
学校説明会（保護者対象）
2002年10月12日（土）13時30分～15時30分

同志社高等学校

創立年：1948年
生徒数：1,211人（うち女子618人）
教職員数：93人
所在地：京都市左京区岩倉大鷲町89
電話：075（781）7121
ホームページアドレス：
<http://www1.doshisha.ac.jp/~high/>

2003年度入試案内
募集人員：約90人（男女）
試験日：2003年2月10日（月）、11日（火）
出願期間：2003年1月22日（水）
～1月29日（水）
合格発表：2003年2月14日（金）
10時HP発表、および郵送
試験科目：国語、理科、社会
数学、英語

入試説明会（保護者・受験生対象）
2002年10月26日（土）14時～
〈施設見学可〉